

# 党市議団、市民ク議員と一緒に

## 最終処分場候補地を視察

7日午後、日本共産党議員団は市民クラブ議員や小山芳元 などの声が出ていました。県議などとともに、春日山城の北西部約2キロに位置する宮野尾地区の産廃最終処分場候補地の視察を行いました。

一行は市役所の生活環境課職員から先導してもらい、春日山城の第2駐車場から古道・桑取道（くわどりみち）を片道約1時間、往復2時間歩きました。この日、歩いた桑取道はかつて（上杉時代）軍道だったところで、ほとんどは海拔150〜250メートルくらいの山の尾根です。チゴユリ、イワカガミ、トキワイカリソウなどが咲いていて、ウド、タラの芽、ノノバナなどの山菜もありました。

候補地を望めるところまで行ってきましたが、候補地は雑木が茂った山の中でした。参加者からは、「道をつくるだけでもたいへんだ」「環境影響調査（予備）をやったとのことだが、下流域への影響、動植物への影響はどうか」「地元の方はどう思うか」と受けとめられておられるのか

日本共産党市議団では、今後も必要に応じて調査をすすめていきます。



【ハマダイコン】柿崎区、大潟区などで咲いています。写真は大潟区蜘蛛ヶ池にて撮影したものです。

### 上流は下流を思い、下流は上流に感謝する

#### 食料・農業・農村議員連盟が綾部市議会と意見交換

上越市食料・農業・農村議員連盟（古澤弘会長）は16日、京都府綾部市議会総務建設教育常任委員会のメンバーと限界集落対策などで意見交換を行いました。

綾部市は昨年の12月議会で、全国の市町村で初となる「水源の里条例」を制定し、注目されました。綾部市議会の白波瀬委員長は挨拶の中で、「市長は平日頃から、上流は下流を思い、下流は上流に感謝することが大切と仰っている。（集落機能などが危機的な状況になっていく）集落にたいする対策はダラダラとやっていくだけではだめ。5年間で一気にやっていきたい。取り組みの中心はそこに住んでいる住民だ。成功するために住んでいる住民が汗をかくことが大事」とのべま

意見交換では、「条例で支援の対象となっている集落以外にも限界集落があるのではないか。そこはどうするのか」「条例制定にあたって議会としてはどう対応したのか」など綾部市の取り組みに対する質問が相次ぎました。

綾部市では、今秋、限界集落対策などを考えるシンポジウムを全国に呼びかけて開催する予定と見えます。上越市との交流がさらに深まるといいですね。



写真左の手前の谷間に約60万㎡の最終処分場の建設が計画されている。写真右は同候補地を南側の山の尾根から見る議員と案内役の市役所職員ら。撮影は橋爪。

## 日本共産党市議団ニュース

No.92	2007年5月20日	
連絡先	杉本敏宏	524-3787 (東本町5)
	樋口良子	544-6802 (中門前3)
	橋爪法一	548-3628 (吉川区代石)
事務局長	上野公悦	530-2203 (頸城区中柳町)